

【No. 21】

●「チャンスがあって、生かす生かさないでは、全然違うことが分かりました。私もチャンスがあっても、そこでできないと思えばあきらめてしまったり、もう少しでできることは努力します。けれど、できないと思うことも努力して全力で頑張ればできるようになり、新しい自分になれると思いました」

- 「分からなくてつまらないから何もしない、という考えと、分からないけど自分で努力してみる、という2つの考えがあった。どちらも“分からない”から始まったものだが、そこからの過程は全く違っていた。分からないから学ばなくていいという考えを変えて、新しいことに興味をもてる人になりたいと思った」
- 「チャンスはいつも手近にある、という文を読んで、すぐ近くにあるチャンスを利用したら、自分の人生がガラッと変わるときがあるのではないかと思った。それが良い方向にいくか、悪い方向にいくかは分からないけれど、これからはチャンスを逃さずに、どんなことがあってもくじけずに生活していきたい」
- 「ぼくも分からないけど、調べたり学んだりせず、そのままにしてしまうことがたくさんあるので、分からなかったら誰かに聞いたり、自分で調べたりなど、積極的に動こうと思った」
- 「“分からないから”“つまらないから”、そう言って、現実から目をそむけるのは、ただの『言い訳』です、『逃げ』です。そんななかでも、なんとかかじりついて必死に理解しようとすれば、いつかは必ず返ってくるんだなと思いました」
- 「この話を読んで、自分はチャンスをかなりの数、むだにしてきたのだな、と思った。思い返せば、自分にはここ1ヶ月の間でも、かなりのチャンスがあったと思う。次からは、チャンスを見逃さず利用していきたい」
- 「とても共感できました。私は韓国のドラマが好きで、吹き替えで見えていましたが、ある日、韓国語で見ると、その人にしか出せない声の深みが伝わって、何回も見ているうちに、韓国の単語を少しですが覚えることができました。“分からない”は学ぶための力になると、そのとき知りました」
- 「ぼくが一番苦手な教科は英語です。英語の授業のときも、“何を言ってるんだろう？”といつも思っています。それに、ぼくは英語を理解しようともしていません。しかし、それはぼくが努力をしようとしなから分からないのです。これを読んで、少しでも努力してみようと思います」
- 「私は海外に住んだことがないので、このような経験をしたことはないのですが、似たようなことはあります。お姉ちゃんが、ハリーポッターを英語で見えて、私にも“見る？”と言ってくれましたが、私は“あまり英語が分からないからいい”と言って見ませんでした。しかし、2学期になって、お姉ちゃんは発音が良くなっていました。ハリーポッターを見ていたら、発音が良くなったそうです。私は今でも、一緒に見ていると何か違ったかなあと感じています」
- 「ぼくは野球をやっているため、チャンスが生かしたものと生かせなかったことが、とても多くあります。生かせなかったら、野球ノートに何がダメだったかの反省を書いています。チャンスを生かすことの大切さが分かりました」
- 「チャンスはすぐ近くにいつでもあるんだなと思いました。ヒマなときなどは、散歩しながら看板の字を読んだりしても、漢字の勉強になると感じました。自分からチャンスを生かす人と生かさない人では、すごい違いなんだなと思いました」

- ⑤「分からないからもう無理だと言って、投げ出してしまいそうになったことが僕にもあった。しかし、母が“分からないからやるのであって、分かる問題ばかりやっていたら成長しない”と言ってくれたことを今でも覚えている。確かに、分からない問題に取り組まないと、次に同じような問題が出たときに、分からなくなってしまうという悪循環が生まれてしまうと思った」
- ⑥「これを勉強に置き換えて読んでみて、今まで積極的に切り換えてやるというよりは、“これはあまりやりたくないから、明日、明日…”とどんどん先延ばしにして、分からずじまいになってしまうことが何回かあったので、これからはやりたくなくても自分から色々なことに挑戦していきたいと思いました」
- ⑦「ぼくは、勉強がめんどくさいと思ったら、すぐにやめてしまいます。しかし、分からないことは、本や教科書を読み、少しずつ覚えることが大切だと思いました。なので、すぐにやめるのではなく自分で答えを出し、理解して取り組みたいと思いました」
- ⑧「英語が分からないから覚えようという人と、英語が分からないからつまらないで終わってしまう人では、全然違うんだなと思った。私は、“まずバットを振る。当たらなくても空振りでもいいから振ることが大事”と教えてもらったことがあるので、まずは挑戦するのが、チャンスを生かせるようになることかなと思った」
- ⑨「私は英語を習っているのですが、習い事の先生が、“留学、行った方がいいよ。話す英語の自然さが分かるから”と私に言いました。でも、私は留学には行きたくないと思っていました。なぜなら、英語がまだあまり話せないし、行ってもどうせ一人だと思っていたからです。しかし、いつか留学に行くチャンスが訪れたら、と考えると迷います。でも、“やってみてダメだった”“やらなくてダメだった”だったら、私は前者の方が良いと思うので、どんどんチャンスにはチャレンジしていきたいです」
- ⑩「確かに、自分から覚えようとする人と、“いつかやる”と言ってずっとやらない人では、大きく違いがある。なので、“やらないで後悔するより、やって後悔した方がいい”の言葉のように、自分から挑戦していくことが大切だなと思った」
- ⑪「ぼくはこの文章に共感しました。ぼくは、まだ外国に行ったことはないけれど、もし行ったときは、その国の言葉を話してみようと思います。また、部活動でも上手な先輩と練習ができるときは、積極的に参加して、先輩のいいところを見つけて、それを真似したりして、もっと上手になりたいと思いました」
- ⑫「“分からないから覚えようとする人と、分からないから投げってしまう人では大変な違いですね”、この言葉に私ははっとした。どちらに良い結果が待っているかなんて、考えずとも分かる。しかし、誰でも自分の苦手なことや分からないことに、好んで取り組もうとは思わないだろう。そういう壁に突き当たったとき、不可能なことと捉えるのではなく、それを“チャンス”だと考え、生かせる人が成功するのだと思った」
- ⑬「なんでもないように見えるものを、チャンスだと感じ取れる“心のアンテナ”をもっておきたいものじゃな」

「チャンスを生かす人と生かせない人」

アメリカのサウスカロライナに、ある紡績会社（綿・毛・麻などをつむいで糸を作る会社）がある。ここは原綿のできる場所なので、名古屋に本社があるこの会社が進出し、社長の息子がアメリカの会社の社長となって赴任した。一緒に日本からたくさんの社員も派遣された。その中のある社員の夫人がこの社長宅にあいさつにきたときの話である。

喜んで応接間に招き入れた社長夫人がそのA社員夫人と話を交えていたが、やがて、社長夫人「あなた、ご主人を会社に送り出したあと、テレビをごらんになる？」

A 夫人「いいえ」

社長夫人「あら、どうして？ たいくつでしょうに」

A 夫人「ええ、でもみんな英語なのでわからないからつまりませんもの。ですから見ないんです。」

あとでその社長夫人は、「お気の毒に、うまくいくかしら？」と語っていたが、はたして半年ののち、その社員夫人はノイローゼになり、日本に戻っていった。

英語がわからないので面白くないからテレビを見ないというA社員夫人は、英語国民に取り囲まれていながら、英語一つ覚えることなく次第に孤独となり、ノイローゼになった。社長夫人の憂いは現実になってあらわれたのである。

「B夫人が私のところへ見えたと、私は同じことを夫人に聞きました。すると夫人はニコニコしながら、ハイ毎日テレビを見ています。英語よくおわかりなんですね、と聞くと、いいえ、わからないのです。ですから主人がこちらに勤務しているあいだに、何とか英語を覚えてしまおうと欲を出してテレビにかじりつき、わからないところはアメリカ人の近所の奥さんに聞いたり、本を読んだりして勉強しています。おかげで少しずつわかってくるような気がして、テレビを見るのが楽しみでたまりません、と答えました。この人はアメリカにいるうちにすっかり英語をマスターしてしまいました。元気よく日本に帰り、今でもときおり元気な手紙をくれます。わからないから覚えようとする人と、わからないから投げてしまう人とでは大変なちがいですね。」社長夫人はしづかにそう私に話してくれました。

チャンスはいつも手近にある。それを生かすか生かさないかが問題であろう。

《感想》 1年()組()番 氏名()
